

2022年度 第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2022年11月24日（木）10時00分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：16名 オブザーバー：24名 計40名（事務局：4名）

○協 議 （1）（仮称）秋田市中心市街地活性化プランの原案について

○報 告 （1）あきた芸術劇場ミルハス開館後の動向と今後の取組について

（2）羽州街道歴史観光推進事業について

（3）なかいちウインターパーク事業について

（4）秋田市中心市街地活性化協議会事業等の進捗について

①広小路バザールの開催結果について

②千秋蓮まつり2022の開催結果について

③あきた芸術劇場ミルハス開館にあわせた秋田市商店街共通駐車券事業の利用促進について

④アートなまち歩きについて

○情報提供 （1）東北経済産業局

（2）東北地方整備局

（発言内容）

【社会長の開会挨拶】

- ・ 11月に開催された「KOUGEI EXPO in AKITA」には多くの方が来場した。「これが秋田だ！食と芸能大祭典」や「広小路バザール」なども中心市街地の賑わい創出に資するイベントだが、中心市街地だからこそ集客できるという潜在力を感じている。
- ・ 9月にグランドオープンしたあきた芸術劇場ミルハスについて、連日、大ホールでのコンサートや中ホールでの舞台・演劇公演が行われている。来年も休日の大半は予約が入っており、ミルハスの来館者による中心市街地の賑わい創出が期待される。
- ・ この効果が一時的なものとならないように、当協議会では、第2期中活基本計画の中核事業であるミルハスと秋田市文化創造館との連携を強め、中心市街地の更なる活性化に繋げていくために、両施設の指定管理者に委員として参画いただくこととした。
- ・ ミルハスと秋田市文化創造館の開館を契機に、中心市街地は賑わいを取り戻しつつあるが、第2期中活計画で定めた目標指標が未達であるなど、真の活性化には道半ばの状況である。

- ・ 秋田市では、今年度中に新たな中心市街地活性化プランを策定する予定であり、本日、プランの原案をお示しいただく。中心市街地の活性化は、秋田市の活性化に不可欠な要素であり、当協議会からも活発に意見を申し述べ、中心市街地の活性化に向けて共に取り組んでいきたい。

【協 議】

〔(1) (仮称) 秋田市中心市街地の活性化に関する計画の原案について〕

秋田市都市整備部都市総務課の横山課長が以下のとおり説明した。

(目的)

- ・ 第2期中心市街地活性化基本計画（平成29年度～令和3年度）に基づき、あきた芸術劇場ミルハスやクロッセ秋田の整備など官民の活性化に向けた取組が行われてきた結果、居住人口の増加や地価の上昇といった成果が現れてきている。一方で、回遊性の低さや大規模な低未利用地・空き店舗が存在しているなど、課題も残っている。
- ・ こうした課題を踏まえ、さらなる活性化とにぎわいの創出を図っていく必要があるため、第2期計画を継承した「(仮称) 秋田市中心市街地活性化プラン (任意計画)」を策定する。

(計画の概要)

- ・ 計画期間は、令和5年度～令和9年度の5年間とする。
- ・ 基本コンセプトは、「集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。～城下町ルネサンスの継承～」と考えた。市民が楽しめる集いの場として、また、居住、創業、市民活動の場など、様々な場面において選ばれることを目指したい。
- ・ 今後は第2期計画までに整備した施設等を活用して活性化を図っていくことから、前計画の基本コンセプトを踏まえ、サブテーマを「城下町ルネサンスの継承」としたい。

(目標・目標指標)

- ・ 目標は5つ設定し、目標指標は前計画の数値を引き継ぐ。

目標	目標指標	現況値	目標値
人々が集いに ぎわうまち	歩行者・自転車通行量 (区域内 12 箇所、7 月下旬)	24,738 人	33,300 人
芸術文化が香 るまち	芸術文化施設利用者数 (1 日あたり)	290 人/日	ミルハス実績を踏ま え設定
暮らしたくな るまち	市内総人口のうち中心市街地人口 が占める割合	1.4%	1.9%
チャレンジで きるまち	商業集積促進関連制度利用件数 (5 年間累計)	181 件	181 件
市民がつくる まち	市民活動等施設利用件数 (年間)	17,082 件	19,800 件

(掲載事業)

- ・ 46事業（うち秋田市：26事業、民間：20事業）。未把握の事業がある際は、掲載を検討したいので、実施主体の連絡先等を秋田市都市総務課まで教えていただきたい。

(策定スケジュール)

- ・ 本日、ご意見をいただいたうえで、12月中旬に秋田市議会に原案を示す。12月下旬に市民100人会およびパブリックコメントを実施し広く意見を募る。

- ・ そのうえで2023年2月上旬に中心市街地活性化協議会、3月中旬に市議会に計画案を示し、年度内の策定を目指す。

<意見・質問>

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- ・ 中心市街地活性化のために様々なイベント等が実施されており、活性化プランにも多くの事業が掲載されている。それを支えるのは日常的なモノであり、イベントが無い日でもまち歩きが楽しめるように、ベンチ等の休憩設備やお手洗いなどの施設を充実させることと、その施設の場所や利用可能時間などの情報発信が重要と思っている。中心市街地活性化というよりも基盤整備に近い取組であるが、これから高齢化が進むと、これらの施設と情報は一層重要になってくる。中心市街地内で気軽に情報を入手できるようになることが望ましい。
- ・ 防災計画を踏まえた活性化プランとなるよう、消防など庁内の関係部局と連携しプランを作成いただきたい。住民が安心して暮らせるまち、安心して来街できるまちにしていきたい。

秋田市都市総務課の横山課長が以下のとおり発言した。

- ・ ミルハスなどの施設が充実し、催事も多数開催されている。今後は「歩きやすい、暮らしやすいまち」にするための研究をしていかなければいけないと思っている。本日、東北地方整備局から「歩きたくなるまち」などに関する事例をご紹介いただけるとのことで参考にさせていただきたい。
- ・ 住民や来街者にとって防災は重要なポイントであり、その考えも頭に入れながら今後プランを作成していく。

辻会長が以下のとおり発言した。

- ・ 基本コンセプトに「安心・安全」を追加してはどうか。検討いただきたい。

秋田公立美術大学の小杉委員が以下のとおり発言した。

- ・ 目標指標の「歩行者・自転車の通行量」は中心市街地の活性化に重要な要素である。
- ・ プランの掲載事業案を見ると大規模なハード整備は落ち着いている状況であるからこそ、まち歩きや芸術文化ゾーンの取組などについて踏み込んで記載していく必要がある。
- ・ 自転車のあり方について、県外客などからは中心市街地内に放置自転車が無いことを評価いただくことがある。一方で、市民の若い世代などからは自転車で行きにくいという話を聞く。自転車置き場の再点検をするなどし、共存策を見い出していく必要がある。

秋田市都市総務課の横山課長が以下のとおり発言した。

- ・ 首都圏などでは自転車を活用した事業が展開されている。本県では運転免許を返納される方が増加しているなど、車以外の交通手段への配慮も重要と思っている。

アーツセンターあきたの三富委員代理が以下のとおり発言した。

- ・ 「KOUGEI EXPO in AKITA」が開催された際に、秋田市文化創造館に訪れた方から千秋公園で使用できる車いすを借りたいとの問合せがあった。当館では館内のみ使用可能な車いすしか有しておらず、秋田市まちなか観光案内所に屋外使用可能な車いすがあることを案内した。観光客などに向けて秋田市のバリアフリー情報を整理して発信する必要がある。

事務局から以下のとおり発言した。

- ・ 中心市街地活性化プランへのご意見について、意見がある方は11月30日までに事務局へご連絡いただきたい。取りまとめたうえで秋田市へお伝えする。

【報 告】

(1) あきた芸術劇場ミルハス開館後の動向と今後の取組について

あきた芸術劇場ミルハスの進藤館長が以下のとおり報告した。

(ミルハスの利用者数)

- ・ 一般入場者数は、開館した6月は約2万1千人であり、報道などにより話題性があったことから多くの方にご来場いただいた。以降、毎月増加傾向にあり、グランドオープンした9月は約4万3千人、10月は約7万9千人となっている。ホールの利用者数について、9月26日以降から利用が開始され、直近10月は約4万7千人となっている。練習室等利用者について、1階の練習室をバンドや合奏で利用いただいている。開館当初は市民等にまだ認知されていなかったためか利用者は少なかったが、直近10月は約2千人にご利用いただいている。

(開館後の動向)

- ・ お試し利用を開始し、県内の芸術・文化団体の協力を得て、実際にバレエ等の実演でホールを利用いただき、一般貸出に向けた練習や利用上の課題・対策を整理した。
- ・ 9月のグランドオープンまでの間、市民等から見学のリクエストが多数あったことから、県内の団体や芸術文化関係者を対象に下見・見学会を実施した。また、土・日・祝祭日には個人向けのホール見学会を実施した。
- ・ 7月の広小路バザール開催時には中ホール見学会と緞帳を展示し、9月開催時にはミルハス全体の見学ツアーを実施した。
- ・ 8月のロータスフェスティバル開催時には蓮のライトアップ時間(22時まで)に合わせて館内の見学時間を1階に加え3・4階も22時まで延長した。

(9月23日グランドオープン後の動向)

- ・ 9/23 あきた芸術劇場ミルハスグランドオープン記念特別公演を開催。新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏(指揮:井上道義、ピアノ:小山実稚恵)を実施した。
- ・ 9/24-25 徳永英明プレミアムコンサートにおいて、両日ほぼ満席となり多くの方にご来場いただいた。
- ・ 2023/1/14-15 県民・市民参加型ミュージカル「櫂の記憶、蓮のトキメキ」を開催予定。

(今後の取組)

- ・ 9月から2023年2月までのイベントスケジュールリーフレットを配布し説明。イベント情報については、ウェブサイトに掲載するほか、リーフレットを増刷し周辺施設・県内文化施設等へ配布する予定である。
- ・ 来年度も広小路バザール、ロータスフェスティバル、周辺の文化施設と連携し、中心市街地の活性化に協力していきたい。

(2) 羽州街道歴史観光推進事業について

秋田市文化振興課の富山課長が以下のとおり報告した。

- ・ 今年度で第4回目となる秋田市羽州街道歴史まつり2022を10月2日に開催した。参加者数は1,248人となり、コロナ前よりは少ないが昨年より増加した。
- ・ 開催内容について、羽州街道沿線の文化財・文化施設を会場にイベントを実施した。赤れんが郷土館ではダンスライブ、旧金子家住宅では邦楽コンサート、民俗芸能伝承館では秋田万歳な

どの指定文化財等の実演、千秋公園御物頭御番所では花の生け込みの披露、現在改築中の佐竹史料館の用地内での発掘調査現地見学会、旧松倉家住宅の見学会を実施した。

- ・ まち歩き観光の要素も含めた街道ウォーキングを実施した。久保田城址歴史案内ボランティアの会のご協力のもと、「登城コース、八橋～寺内コース、寺内～土崎コース、御所野コース」の4コースを設定した。
- ・ また、市民等が文化施設に気軽に触れ合える機会をつくるために、赤れんが郷土館や民俗芸能伝承館、旧金子家住宅、秋田城跡歴史資料館を無料公開した。
- ・ 今後について、羽州街道歴史まつりの開催で得たノウハウを活かし、来年3月に開館する旧松倉家住宅を拠点に事業を展開していきたい。旧松倉家の運営は指定管理者制度を導入し民間のアイデアも取り入れる。見学していただくだけの施設ではなく、活用いただける施設となるよう準備を進めている。赤れんが郷土館や旧金子家住宅と線で結び歴史観光資源として活用していきたい。

(3) なかいちウインターパーク事業について

秋田まちづくり㈱の畠山社長が以下のとおり報告した。

- ・ あきた光のファンタジーについて、JR秋田駅前からキャッスルホテルまでイルミネーションで中心市街地を彩る。11月25日に点灯開始し来年2月28日まで実施する。あきた光のファンタジーの一員としてエリアなかいちでも趣向を凝らしたイルミネーションを準備している。点灯時間は17時から22時。これまでは24時まで点灯していたが昨今の情勢を踏まえ時間を短縮した。
- ・ 新規企画のデジタルスタンプラリーについて、スマートフォンのGPS機能を利用し、スマートフォン上のマップを巡り、スタンプラリーを楽しんでいただきながら周辺の観光・イルミネーション情報を紹介する。スタンプラリーのスポットは、エリアなかいち、JR秋田駅西口駅前広場、あきた芸術劇場ミルハス・秋田市文化創造館、秋田市まちなか観光案内所、すすらん通りの5箇所となる。観光スポットは、イルミネーション、観光文化施設、土産品店を中心として、商店街や商業施設などを紹介する。
- ・ 12月24日、25日にクリスマスマーケットを開催する。24日はミニライブを行い、終了後に仕掛け花火を実施する。
- ・ 来年1月2日、3日に新春まつりを開催する。餅つき体験や正月遊びを行うほか、エリアなかいち出店者の協力のもと年明けうどんやお雑煮をふるまう。
- ・ 2月には、童っこの雪まつり、アイスパーク、バレンタインウィークを実施する。インスタ映えする氷柱花や氷のオブジェを展示するアイスパークは非常に人気である。童っこの雪まつりはコロナの影響で開催できていなかったため3年ぶりの開催となる。
- ・ 春夏秋と中心市街地の賑わいが戻ってきているので、冬も集客事業を継続して行う。ウインターパーク期間中の来場目標は13万人とする。(イルミネーションの見学者含む)

<意見・質問>

辻会長が以下のとおり発言した。

- ・ イルミネーションについて、ミルハスや文化創造館との連携は検討できないか。

秋田まちづくり(株)の畠山委員が以下のとおり発言した。

- ・ 今年度の光のファンタジーは、JR 秋田支社、周辺商店街、中心市街地魅力アップ事業実行委員会、あきたまちづくり共同企業体が共催で実施している。来年度に向けて共催団体とも相談しながら、両施設と連携を図っていく。

アーツセンターあきたの三富委員代理が以下のとおり発言した。

- ・ 秋田市文化創造館において、今年度はイルミネーションの設置は難しいが、クリスマスマーケットなどウィンターパークで実施される催事と当館の情報をセットで発信するなど連携策を考えていきたい。

(4) 秋田市中心市街地活性化協議会事業等の進捗について

事務局が以下のとおり報告した。

① 広小路バザールの開催結果について

- ・ 7月3日と9月18日の計2回開催した。今年度は、広小路周辺の施設や商店街等と連携し同日開催の催事を充実させたことで、面的な賑わいの拡大、来場者の回遊性向上を図った。来場者は1回目3万人、2回目4万人となり、昨年度の2万人を大きく上回った。
- ・ 昨年度は交通規制により交通渋滞が生じてしまったが、今年度は告知期間を十分確保するとともに当日の迂回誘導を徹底するなどし、目立った渋滞は生じなかった。
- ・ 会場周辺の飲食店や小売店からは「来店客数、売上が増加した」「複数のイベントが連携開催することで来場者の回遊性向上と周辺店舗への波及効果があることを体感した」というコメントをいただいている。
- ・ 今年度の開催結果やご意見などをもとに、来年度の開催内容を今後検討していく。

② 千秋蓮まつり2022の開催結果について

- ・ 千秋公園お堀の蓮の花ライトアップ期間中の7月22日から8月31日に開催した。蓮の花ライトアップは19時から22時に実施し、2年目を迎え鑑賞者や写真撮影をする方が多く見受けられた。
- ・ 蓮の鑑賞者やイベント来場者を周辺飲食店に誘客するためにLINEを活用したグルメクーポン事業を実施し、503名に登録いただいた。
- ・ 7月26日から7月30日に千秋公園夜観光を実施。エリアなかいち「にぎわい広場」での秋田市竿燈会公開練習の特別観覧などを取り入れた、さきがけバスツアーや期間限定宿泊プランを旅行会社や宿泊施設に実施いただいた。また8月4日から8月7日に千秋公園朝観光を実施し、秋田市観光案内人による千秋公園の魅力&歴史探訪ツアーを行った。
- ・ 8月19日、20日に秋田市文化創造館の屋外エリアを会場にLOTUS FESTIVAL2022を開催した。工芸・クラフト商品を販売するテントブースとキッチンカーが出店したほか、子供向け企画としてナイトプールを設置。秋田駅西口駅前広場で同日開催された「エキマエ、はじまる。さんど市」と連携し、来場者の回遊性向上を図った。
- ・ 蓮の花フォトコンテストには908件の応募をいただき、昨年の3倍近い件数となった。入賞作品を展示する写真展をあきた芸術劇場ミルハスで行った。(期間：10月1日から31日)

③あきた芸術劇場ミルハス開館にあわせた秋田市商店街共通駐車券事業の利用促進について

- ・ ミルハスのグランドオープン後、来館者により周辺駐車場の利用が増加することが見込まれることから、この機会に加盟店での買物金額等に応じて提供している秋田市商店街共通駐車券の利用促進を図る。ミルハス来館者の利便性向上および、中心市街地商店街・商業施設の利用拡大、中心市街地の回遊性向上などに繋げる。
- ・ 加盟店および加盟駐車場に当駐車券の利用案内ポスターを配布し掲示を依頼したほか、各施設のデジタルサイネージにも情報掲示を依頼。また、加盟店・駐車場の更なる増加を図るために周辺商店街等に改めて加盟を促した。

④アートなまち歩きについて

- ・ 秋田市中心市街地に関する情報誌「アートなまち歩き」最新号を配布し、情報提供した。

【情報提供】

(1) 東北経済産業局からの事業紹介

東北経済産業局商業・流通サービス産業課の梅川研修員が以下の事業を紹介した。

- 地域商業複合化推進事業
- 面的地域価値の向上・消費創出事業
- IT 導入補助金
- 中小企業等事業再構築促進事業

(2) 東北地方整備局からの事業紹介

東北地方整備局都市・住宅整備課の高濱課長が以下の事業を紹介した。

○まちなかウォークブル推進都市事業

- ・ 「居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり」の形成を目指し、ウォークブル推進都市を募集している。
- ・ 秋田市中心市街地には、JR秋田駅西口駅前広場や、秋田駅前大屋根通りのアーケードなどまち歩きに適した施設が整備されている。また、人情味溢れる商店街があり、中心市街地は半径1km圏内におさまっており、人口減少下においても賑わいづくりに適した街と感じている。
- ・ 人口動態をみると、1980年代は中心市街地の人口密度が高かったが、郊外開発が進み、国道7号線沿いや13号線沿いに人口が移っている。ただし、過度な変化ではなく、全体的な人口減少も相まって中心部の人口が減少したと推測される。
- ・ 小売販売額をみると、1980年代は中心部に集中しているが、2020年になると大幅に減少している。ただし、その分郊外の小売販売額が増えているわけではない。
- ・ 秋田市の主な交通手段について、72.1%が車である。全国地方都市よりも車社会が浸透していると思われる。違う見方をすると買い物地元以外でもできる方が多いと言える。
- ・ 中心市街地の魅力は商店街に専門性のあるお店が面的に並ぶなど大型商業施設には無い点である。それを磨いていくことで、歩いて楽しい、選ばれる街になると思っている。
- ・ ニューヨークではブロードウェイを社会実験で歩行者空間化し、現在は恒久的に歩行者天国となっている。その結果、歩行者数が35%増、歩行者負傷者数35%減、不動産価値が上がっ

た。その他二酸化炭素の排出が40%減少するなど環境面でも効果があった。スペインでは歩行者天国にすることで周辺飲食店に波及効果があることが論文で証明されるなど、歩行者や自転車優先の道路活用に注目が集まっている。道路を賑わいつくりを活用することで、楽しそうな雰囲気生まれ来街者の満足に繋がる。定着し来街者が増加することで投資効果生まれる可能性もあると推測する。

閉 会